

短期大学の英語学習におけるコンピュータの効果について

新沼 史和¹⁾

The effects of computers for English learners in a junior college

Fumikazu Niinuma¹⁾

Abstract

In this paper, I report the psychological and educational effects of computers in an English class in a junior college. The author used a questionnaire in order to evaluate how the students who studied English in a junior college changed their attitude toward English. The result of the questionnaire showed that they changed the way of thinking toward English in a good way. As for the educational effects, the author used the Minimal English Test (see Maki, Wasada, and Hashimoto (2003)) and analyzed the test scores statistically. The statistical analysis showed that their English-listening ability is significantly changed. This clearly indicates that computers are one of the good tools to improve the students' attitude toward English.

1. はじめに

近年、高知学園短期大学（以下本学と呼ぶ）における英語教育は、非常に困難な側面を持っている。その理由の一つとして、学生の英語能力にかなりの差、ばらつきが見られるということである。近年、プレースメントテストを導入し、学生のレベルに合わせてクラス編成を行うという短大・大学が増えている。しかし、残念ながら、本学では、カリキュラムや学生数の都合上、レベルに合わせたクラス編成ができないのが現状である。また、能力にばらつきのあるクラスでは、学生一人ひとりに対してきめ細かい指導をすることも容易なことではない。それに加え、本学の時間割表も様々な授業でびっしりと詰まっているため、英語の授業時間などを増やすなど、もっと英語を勉強したいという学生のニーズに応えることができない。また、授業時間が限られているため、学生の英語の学習量も不足しているということも問題であろう。現在、「リメディアル教育」という言葉がよく聞かれるようになったが、それほど、学生の学習レベルが非常に低下しているということを如実に表していると思われる（新沼・中川(2005)を参照のこと）。それだけにとどまらず、最近では英語という外国語だけではなく、母語である日本語の能力の低下をも指摘されている（産経新聞2007年5月1日）。

このような問題を解決すべく、筆者は、学生個人の英語能力の向上を目的として、学内ネットワーク対応型の英語教育システムの導入を行った。特色として、学内LANを使用することにより、

1) 高知学園短期大学 幼児保育学科 外国語研究室

従来のLL教室がなくてもコンピュータを使った英語学習を行うことが可能であるだけでなく、一斉授業でも学生への適切な個人指導が可能になる。また、あらゆる場所からでも自主学習が可能である。上に挙げた問題をすべて解決できるわけではないが、何らかのプラスの効果があるものと考え、このような英語教育システムの導入を行ったのである。

また、この英語教育システムを導入したことによって、学生たちがどのように変化したのかという調査も同時に行った。特に、学生たちの英語に対しての心理的变化、そして、英語能力の変化についての調査を行った。その結果は以下のとおりである。1) 学習者は、英語という教科に対して興味・関心を抱くようになった(新沼・中川(2005))、2) 英語学習者の listening 能力が伸び、その伸びは、統計的有意であった。このことから、英語教育における英語能力の役割は心理的影響を与えるだけでなく、学力の向上にも有効であるということを示唆している。

次節では、本学における英語学習方法について概観をする。第3節では、学習者が英語に対してどのような心理的变化をもたらしたかを論ずる。第4節では、学習者の Listening 能力についての変化を統計的に表す。最終節では、調査の結果と、今後の課題を提起する。

2. 学習方法

2. 1. ポートフォリオ学習

本学における筆者の英語教育では、ポートフォリオ (Portfolio) 学習を採用している。「ポートフォリオ」ということばは、元来は直接の教育用語ではなかった。語義の上では「今までに製作された一連の作品群」といったものが近いと思われ、その内容から当初日本では小・中学校の「総合学習」の効果を高める学習方略として注目され始めた。語学教育と密接な関わりを持つに至ったのは The Council of Europe が提唱した(主として EU における)外国語教授法としてのポートフォリオ学習である。具体的内容は佐藤・山名・中川 (2004) に譲るが、複数あるポートフォリオ学習形態のうち、本稿では Assessment Portfolio を採用している。

2. 2. 教材

学習に使用した教材は「えいご漬け、えいご漬け 2 回戦 (CD-ROM)、フォレスト三昧、Pronunciation Power 1」である。この教材は、学習者がコンピュータから流れてくる英語を聞き取り、それをタイプしていくものである。学生にはヘッドホンを別途購入させ、毎回の授業に持参させた。それ以外の教材として、リスニングのウォーミングアップとして、英語の歌を聞かせ穴埋め(空欄を15~20個設けた自作のプリントを配布)を行った。

2. 3. 学習の進め方

学習初期の段階で、コンピュータを使った英語学習についての注意点を確認させた。その注意点とは

- ノートを適切に作成すること
- 個々の学習者が持つ学習ペースを尊重すること
- 個々の学習者の英語能力に応じて自由にどのセクションでも行ってもいいこと

である。コンピュータを使った英語学習の利点として、学習者の個々の習熟度に応じて学習を進

められる点があり、これを極力阻害しないように努めた。さらに、教員が学習課題を与えるのではなく、学習者自身に課題を発見させその達成に努めるよう強く意識させた。ただし学習開始回数、ソフトおよび学習形態に慣れさせるため学習箇所を統一した。

3. 心理的側面¹

3. 1. 学習開始時の学習調査

学習開始時に学習調査（資料 A）を実施し、全95名から有効回答を得た。ここでは特に変容の大きかった回答を中心に分析を行った。個々の質問に対し、「全く思わない(1)」から「その通りです(4)」の4段階で回答する形式となっている。尚、質問項目41から45については、第二回調査において新たに付け加えられたもの、また、46については自由回答が可能であるため、別扱いで分析を行った。

学習前の調査回答の結果では、以下の項目で顕著な数値が出た。肯定的な回答（上位10項目）は、以下の通りである（項目：数値）。

- 「何度も繰り返し練習するのは大切である。」(20：3.67)
- 「英語学習は難しい。」(35：3.48)
- 「私は英語が上手に話せるようになりたい。」(33：3.45)
- 「英語を正しい発音で話すことは大切だ。」(7：3.4)
- 「英語は難しい言語だ。」(3：3.31)
- 「私は外国人と友達になりたい。」(34：3.22)
- 「英語ができれば良い仕事のチャンスがある。」(31：3.13)
- 「外国語を学ぶのは大人より子どものほうが簡単である。」(1：3.06)
- 「カセットテープやCDを使って練習するのは大切である。」(26：3.01)
- 「英語を学ぶときは、外国人に習うのが一番よい。」(30：2.99)

また、否定的な回答（下位10項目）は、以下の通りである。

- 「私は英語学習に適した能力を持っている。」(16：1.61)
- 「私が英語学習で進歩がなかったら、先生に責任がある。」(23：1.61)
- 「数学や理科が得意な人は英語の学習は得意ではない。」(12：1.66)
- 「日本人は英語を学ぶのが上手だ。」(6：1.91)
- 「将来英語がうまく話せるようになると思う。」(5：1.94)
- 「日本人同士で英語で会話をするのは無駄だ。」(39：1.94)
- 「宿題は必要である。」(10：1.98)
- 「教科書がないと英語は勉強できない。」(29：2.07)
- 「自分たちでその日の学習内容を決めるのは効果的ではない。」(15：2.10)
- 「効果的な授業のためには授業中日本語を使わないほうがよい。」(11：2.15)

1 本節の詳細な報告に関しては、新沼・中川(2005)を参照されたい。

このことから学習者は、反復学習の重要性(20)、英語が上手になりたいという欲求(33,31)、発音の正確さ(7)に関して比較的高い認識を持っていることが明らかになった。また、学習者自身がスケジュールを立て、学習を進めようという意欲が感じられ(15)、そのためには外国人が必要であり(30)、授業中に日本語を使わないほうがよい(11)という、学習に対する前向きな側面も垣間見て取れる。しかしながら、英語そのものに対する難しさや、抵抗感に加えて「あきらめ」に似た感情(35,3,5)、自身の能力や適性に対して極めて否定的、悲観的な見解を持っている(1,16,12,6)。英語の学力が低下した理由として、教師の責任であると考えている(23)学習者も相当数含まれている。

3. 2. 学習後の調査回答分析に見る学習者の変容

全学習者の回答で、学習前（プレ）、学習後（ポスト）で変容の大きかった項目は表1の通りである。

表1 学習前と学習後での変容

	肯定から否定					否定から肯定				
	順位	項目番号	プレ	ポスト	差	順位	項目番号	プレ	ポスト	差
全体	1	3	3.3	3.02	-0.278	1	11	2.13	2.46	0.322
	2	35	3.49	3.23	-0.262	1	25	2.23	2.55	0.322
	3	40	2.42	2.16	-0.261	3	5	1.93	2.23	0.294
	4	28	2.52	2.33	-0.194	4	4	2.48	2.73	0.250
	5	38	2.53	2.36	-0.172	5	10	1.97	2.19	0.222
	6	17	2.81	2.65	-0.161	6	16	1.6	1.8	0.2
	6	18	2.74	2.58	-0.161	6	26	2.96	3.16	0.2
	8	9	2.58	2.43	-0.15	8	2	2.34	2.50	0.157
	9	8	2.86	2.73	-0.13	9	36	2.97	3.12	0.156
	10	32	2.71	2.60	-0.10	10	1	3.06	3.2	0.144

「効果的な授業のためには授業中日本語を使わないほうが良い。(11)」では、学習者が外国語を学ぶ際にできるだけ日本語を使わない、というよりはむしろ、英語をより多く聞き取るのが良いという、本授業の目的を理解できた結果と推測できる。

また「授業中の活動は、クラスがみな同じ活動をするほうが良い。(40)」 「たとえ自分のやり方とは違っていても先生のアドバイスに従う(17)」 「指導者がいないと英語の学習はできない(18)」においても、中学・高校での英語の授業とは異なる形態に最初は不安を感じながらも、実際に行ってみると肯定的に捉えられ、取り組むことができたものと考察できる。本稿で述べられる授業形態は、それまでの教員主導型とは大きく異なり、学習者が個々のレベルに合わせて学習を進め、不明な点は何度でも繰り返し行えるという、学習者中心の学習形態である。このことは、教員の役割の変化に大きな影響を与える。教員主導の学習では、教員が個々の学習者の理解度(習熟度)の差に充分に対応できず、学習内容をこなしていくことに重きが置かれがちであるが、学習者主導の場合、教員にはアドバイザーとして個々の自己学習をサポートしていくという新たな

役割が求められる。当然のことではあるが、優れたアドバイザーとなるためには、個々の学習者の英語能力の把握と、学習後のフォローアップが必要となってくる。

加えて「英語は難しい言語だ。(3)」、「英語学習は難しい。(35)」といった、それまでの否定的な思い込みを払拭し始めるというプラスの効果が生まれている。また、「誰でも英語は話せるようになる(36)」では、学生の英語に対する苦手意識が若干ながら低下したと分析できる。

こうした結果から学習終了後の学習者のプロフィールを要約すると「必ずしも英語は難しいと構える必要はない。重要なのは、「常に先生のアドバイスに従うのではなく、個々の学習者自身がやりたいことを行う」となる。

3. 3. コンピュータを用いた学習についての項目

学習終了後に実施した、コンピュータを用いた学習に関する質問（第2回目調査追加項目）への回答からは、学習者の非常に高い満足感が伺える。

- 「コンピュータを使った英語学習は楽しい」(3.24(全体))
- 「コンピュータを使った英語学習は効果的である」(3.01)
- 「学習記録（ノート）作成は効果的な学習方法である」(3.06)
- 「この授業は熱心に参加している」(3.57)
- 「先生の指導は適切である」(3.27)

このように、ほぼ全ての項目で4段階の3（そう思うことがある）以上の肯定的な回答を得た。英語学習への動機付けが極めて困難である短期大学の現状に対して、今回実施した「コンピュータを用いた英語学習」により、何らかの提起が可能であると考えられる。学生の全般的な集中力の低下が指摘される現在、学生が楽しいと感じ、熱心に授業参加できるという種々の感想からは、コンピュータを用いた学習が有益であり、苦手意識を感じることなく英語に取り組めるというメリットが読み取れる。今後再検討されるべき案件が残される（教室の机上のスペース等）が、それでも積極的な学習態度を促し、満足感を引き出すことができたと考えられる。

3. 4. まとめ

コンピュータを用いた英語学習のメリットの一つは、学生たちが自由に英語学習を行うことができるということである。このことは、中学校、高校で行われている一斉授業では決して味わうことのできないものであり、学生たちは他の学生に気を遣うことなく自分のペースに合わせて楽しく学習ができたと思われる。また、中学・高校での英語の授業において、英文法の難しさを嫌というほど味わっているため、英文法ではなく、リスニングに焦点を当てた授業に興味・関心、そして新鮮さを感じたという学生もいた。決定的な要因は今後の詳細な研究が必要ではあるが、今回の調査で明らかになったことは、コンピュータを用いた英語学習システムを導入したことにより、学生の英語に対する心理的変化（印象）がよい方向へ変化したということである。

4. 英語能力の変化について

本節では、コンピュータを用いた英語学習がどれだけ学生の英語能力に変化を与えたのかとい

うことについて報告を行う。学生の英語に対する印象が概ね良好に変わったということは前節で述べたが、英語能力に関しても変化が見られなければ、学生は「あの授業は楽しかった」という印象しか残らないであろう。英語教員である以上、学生の英語能力を伸ばしてあげたいと思うのは当たり前であると思われる。

しかしながら、ポートフォリオ学習があまり英語能力についてあまり効果が得られないという報告がある。佐藤、山名、中川(2004)では、ポートフォリオ学習と並行して実施した小テスト結果を分析し、その成果については期待した程の効果が得られなかったとしている。だからといって、学習態度の変容と同時に英語能力の向上を図ることは不可能なことではないと思われる。そこで、英語能力がどれほど向上したかを the Minimal English Test (MET) (詳しくは、牧・和佐田・橋本(2003), 新沼・牧(2004)を参照のこと) を用いて測定を行った。

4. 1. MET

MET は、1枚の紙に書かれた英文の空白部分72箇所から CD から流れてくる英語を聞きながら正確な英単語を埋めていくテストである。MET は、Sakamoto, Furuya, and Hubenthal (2001)の大学一年生向けの英語教科書とそれに付随している CD を利用して作られた。MET には、無作為に72箇所の空白が設けられている。但し、その空所には4文字以内の英単語が入っている。MET の音声は約5分継続し、その速度は毎分125語程度である。

なぜ、4文字以内の英単語を抽出したかについて説明が必要である。牧、和佐田、橋本(2003)によると、様々なパイロットスタディを重ね、結果的に、無作為に、4文字以下の英単語を空所と置き換えることが、意義のある結果を生みやすいということが分かってきた。その単語は、cat, name などの語彙範疇や a (n), the などの機能範疇などである。そして、語彙範疇を含むので、予測して空所を埋めることが困難になった。MET に関する詳細な説明に関しては、牧、和佐田、橋本(2003)を参照のこと。資料 B に MET を示す。

受験者には事前に以下の3つの注意が与えられる。

1. CD を聞きながら、空いている括弧の中に4文字以下(最大で4文字)の英単語を入れること。
2. CD は約5分継続されること。
3. 文18と19の間には約3秒程度の中断が入ること。

その後、音量を確認するテストを行い、MET を開始する。

4. 2. データ分析

4. 2. 1. データ

MET のデータは、本学にて2004年から2006年の間に実施された英語 I、II、英会話 I、II のものを利用する。このテストを2回とも受けた学生は、全体で230名である。

4. 2. 2. 分析

Microsoft Excel を用い、MET の第一回目のテストと第二回目のテストの結果に対して、t-検定を行った。有意レベルは、 $p < .05$ である。その結果は以下の表に示される。

	MET 1	MET 1 (2)
平均	16.53043	22.82608
分散	67.1885965	94.23183
観測数	230	230
仮説平均との差異	0	
t	19.10417695	
P (T <=t) 両側	2.69955E-49	
t 境界値 両側	1.970377	

4. 2. 3. 結果

上の分析で表されたように、1回目のMETの成績の結果と2回目の成績の結果には、統計的有意が見られた。つまり、コンピュータを用いた英語学習が、学生の英語に対する心理的变化をもたらしただけでなく、学生の英語能力の向上に貢献をしたということである。

METは、短期大学生の英語学力を測定するのに最適なテストである。最も有益だと思われる点は、短時間(約5分間)でテストが完了するという点である。そうすることにより、学生は飽きることなく一生懸命テストに集中できる。

METにおいて、平均点が6.3点上昇するということは、METが72点満点であるので、8.7%の伸びに対応する。別の言い方をすれば、牧、和佐田、橋本(2003)によると、センター試験英語の点数が150点の学生が、12点も伸びることになる。しかも、たった4ヶ月間の週1回の英語の授業でここまで成績が伸びたということになる。このことは、学生が英語を学習したという達成感を味わうだけでなく、英語が少しでも上達したという充実感を感じることができないのではないだろうか。そして、結果的にコンピュータを用いた英語学習が非常に有益であるということを表しているのではないだろうか。

5. まとめ

本報告書は、短大における学生たちにとってよりよい英語の講義とはいかなるものなのかということテーマに対する一つの答えを出そうという目的で書いたものである。最近のLL教室やコンピュータを利用した演習形式の英語の講義の非常に優れている点の一つは、どこで躓いているか学生によって異なるため、一人ひとりのレベルに合わせて指導ができるということであろう。学習履歴が残るということも学生の理解度を理解する上で重要な役割を果たしている。学生一人ひとりに合った指導ができるということが心理的、そして学力向上に変化が表れた一つの要因になっているのかもしれない。

それに加えて、自分のペースに合わせて自由に英語学習をするということがいかに重要なこと

かということが学習者にはっきりと理解できたと思う。一斉授業では、学生は、授業についていくことへのプレッシャーを無意識のうちに感じ、そのことによって英語というものの自体への楽しさ、面白さを感じる事が少なかったのではないだろうか。その閉塞感を開放させ、自分の思うままに英語の学習ができることこそが、英語の楽しみを引き出し、その結果として、英語能力の向上につながったものだと思う。更に、学生たちは非常に集中して授業に取り組むため、私語・内職・睡眠の注意をすることはほとんどなくなったため、授業がスムーズに運ぶという、指導者にとっても非常にやりやすい、素晴らしい授業を作り出すことができた。

今回の調査では、英語学習者の心理的影響、そして学力向上への変化をもたらした要因を特定することはできなかった。それに加えて、シラバスの改良やソフトの改良などにより、より大きな効果が望まれるかもしれない。こうした点については今後の課題としたい。

謝 辞

本報告書は、平成16年度から18年度まで筆者が補助を受けた大学教育高度化推進特別経費「高等教育研究改革推進経費」（タイトル：「学内ネットワーク対応型英語学習システムの構築」）の成果を報告するものである。

参考文献

- 佐藤敏子（2005）「リメディアル教育の実践－ポートフォリオ学習の有効性－」『つくば国際大学研究紀要』11, 11-23.
- 佐藤敏子・山名豊美・中川武（2004）「ポートフォリオ学習における学習者の変容－自律した学習者を目指して－」『つくば国際大学研究紀要』10, 31～48.
- 牧秀樹、和佐田裕昭、橋本永貞子（2003）「最小英語テスト(The Minimal English Test)：初期研究」英語教育 52.10, 48-51.
- 新沼史和・牧秀樹（2004）「短大生における最小英語テスト(MET)とその所見」『高知学園短期大学紀要』35, 39-43.
- Sakamoto, Masako, Noriko Furuya, and Charles D. Hubenthal (2001) *Thoughts into Writing*. Tokyo: Seibido.

(2007年9月28日受付；2007年11月16日受理)

資料 A

学習調査

かな
名前 _____

コンピュータを使った英語学習が終わります。きっと今までの「英語の勉強」とは違う新しい体験だったと思います。「英語の勉強」について、今までとは違う「感想」や「考え」をあなたは今持っているのではないのでしょうか。そのことを聞きますので、答えてください。

1--まったく思わない 2--あまり思わない 3--そう思うことがある 4--その通りです

- | | |
|---|------------------|
| (1) 外国語を学ぶのは大人より子どものほうが簡単である。 | 1----2----3----4 |
| (2) 外国語を学ぶのに特別な才能を持っている人がある。 | 1----2----3----4 |
| (3) 英語は難しい言語だ。 | 1----2----3----4 |
| (4) 英語の背景にある文化について学びたい。 | 1----2----3----4 |
| (5) 将来英語がうまく話せるようになると思う。 | 1----2----3----4 |
| (6) 日本人は英語を学ぶのが上手だ。 | 1----2----3----4 |
| (7) 英語を正しい発音で話すことは大切だ。 | 1----2----3----4 |
| (8) 英語を話すには英語圏の文化を知る必要がある。 | 1----2----3----4 |
| (9) 最も効果的な学習方法は先生が良く知っている。 | 1----2----3----4 |
| (10) 宿題は必要である。 | 1----2----3----4 |
| (11) 効果的な授業のためには授業中日本語を使わないほうがよい。 | 1----2----3----4 |
| (12) 数学や理科が得意な人は英語の学習は得意ではない。 | 1----2----3----4 |
| (13) 英語の勉強はアメリカやイギリスなどで勉強するのがよい。 | 1----2----3----4 |
| (14) 英語を勉強すると、日本の文化もよく理解できるようになる。 | 1----2----3----4 |
| (15) 自分たちでその日の学習内容を決めるのは効果的ではない。 | 1----2----3----4 |
| (16) 私は英語学習に適した能力を持っている。 | 1----2----3----4 |
| (17) たとえ自分のやり方とは違っていても先生のアドバイスに従う。 | 1----2----3----4 |
| (18) 指導者がいないと英語の学習はできない。 | 1----2----3----4 |
| (19) 英語の学習で最も重要なのは単語・熟語を覚えることである。 | 1----2----3----4 |
| (20) 何度も繰り返し練習するのは大切である。 | 1----2----3----4 |
| (21) 授業を管理するのは先生である。 | 1----2----3----4 |
| (22) 英語の学習で最も重要なのは文法である。 | 1----2----3----4 |
| (23) 私が英語学習で進歩がなかったら、先生に責任がある。 | 1----2----3----4 |
| (24) 学生の評価は先生によってされるべきである。 | 1----2----3----4 |
| (25) 英語は、読んだり聞いたりするよりも、話すことのほうが簡単である。 | 1----2----3----4 |
| (26) カセットテープやCDを使って練習するのは大切である。 | 1----2----3----4 |
| (27) 外国語を学ぶということは他の学問を学ぶこととは異なる。 | 1----2----3----4 |
| (28) 英語学習で最も重要なのは、日本語から英文に翻訳する仕方を学習することである。 | 1----2----3----4 |
| (29) 教科書がないと英語は勉強できない。 | 1----2----3----4 |

- (30) 英語を学ぶときは、外国人に習うのが一番よい。 1----2----3----4
- (31) 英語ができれば良い仕事のチャンスがある。 1----2----3----4
- (32) 外国語ができる人は頭がよい。 1----2----3----4
- (33) 私は英語が上手に話せるようになりたい。 1----2----3----4
- (34) 私は外国人と友達になりたい。 1----2----3----4
- (35) 英語学習は難しい。 1----2----3----4
- (36) 誰でも英語は話せるようになる。 1----2----3----4
- (37) 日本人の先生より、外国人に英語は習いたい。 1----2----3----4
- (38) 英語は話したり聞いたりするより、読んだり書いたりするほうがやさしい。 1----2----3----4
- (39) 日本人同士で英語で会話をするのは無駄だ。 1----2----3----4
- (40) 授業中の活動はクラスがみな同じ活動をするほうがよい。 1----2----3----4
- (41) コンピュータを使った英語学習は楽しい。 1----2----3----4
- (42) コンピュータを使った英語学習は効果的である。 1----2----3----4
- (43) 学習記録（ノート）作成は効果的な学習方法である。 1----2----3----4
- (44) この授業は熱心に参加している。 1----2----3----4
- (45) 先生の指導は適切である。 1----2----3----4
- (46) この授業について今感じていることを書きなさい。（詳しく）

資料 B : MET

名前: _____ 日付: _____ 年 _____ 月 _____ 日 点数: _____ /72 _____ %

今年のセンター試験の英語点数: _____ /200 今年のセンター試験の国語点数: _____ /200

今年のセンター試験の数学点数: _____ /200 英語検定: _____ 級 TOEFL: _____ 点 TOEIC: _____ 点

CD を聞きながら、^あ空いている括弧^{かっこ}の中に、4 文字以下（最大で 4 文字）の英単語を入れて下さい。

(Please fill an English word with 4 letters or less into each blank spot, while listening to the CD.)

1. The majority of people have at least one pet at () time in their ().
2. Sometimes the relationship between a pet () or cat and its owner is () close
3. that () begin to resemble () other in their appearance and behavior.
4. On the other (), owners of unusual pets () as tigers or snakes
5. sometimes () to protect themselves () their own pets.
6. Thirty years () the idea of an inanimate () first arose.
7. This was the pet (), which became a craze () the United States and
8. spread () other countries as ().
9. People () large sums of money for ordinary rocks and assigned () names.
10. They tied a leash around the rock and pulled () down the street just () a dog.
11. The rock owners () talked () their pet rocks.
12. Now () we have entered the computer age, () have virtual pets.
13. The Japanese Tamagotchi---() imaginary chicken ()---
14. () the precursor of () virtual pets.
15. Now there () an ever-increasing number of such virtual ()
16. which mostly young people are adopting () their ().
17. And () your virtual pet (),
18. you () reserve a permanent resting place () the Internet in a virtual pet cemetery.
19. Sports are big business. Whereas Babe Ruth, the () famous athlete of () day,
20. was well-known () earning as () as the President of the United States, the average

21. salary () today's professional baseball player is () times that of the President.
22. () a handful of sports superstars earn 100 times () through their contracts
23. () manufacturers of clothing, (), and sports equipment.
24. But every generation produces () or two legendary athletes () rewrite
25. the record books, and whose ability and achievements () remembered () generations.
26. () the current generation Tiger Woods and Michael Jordan are two () legendary
27. figures, () of whom () achieved almost mythical status.
28. The () that a large number of professional athletes () huge incomes
29. has () to increased competition throughout () sports world.
30. Parents () their children to sports training camps () an early age.
31. Such () typically practice three to () hours a day,
32. () weekend () during their school vacations
33. in order () better their chances of eventually obtaining () well-paid position
34. on a professional () when they grow ().
35. As for the () young aspirants who do () succeed,
36. one wonders if they () regret having () their childhood.